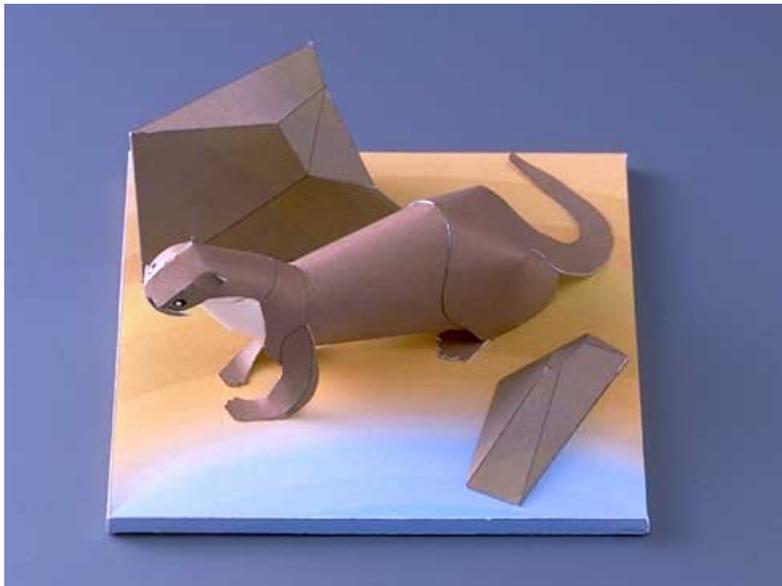


日本の希少動物

第4回

ニホンカワウソ

組立説明書



ペーパークラフト「ニホンカワウソ」をダウンロードしていただきまして、ありがとうございます。シートに記載されている記号と、この説明書を参考に、すべてのパーツを組み立てると、「ニホンカワウソ」のペーパークラフトモデルが完成します。ご家族揃って挑戦してください。

組立説明書 A4・6ページ(各バージョン共通)
クラフト A4シート×2 パーツ総数7

これは「ニホンカワウソ」の組立説明書です。パーツデータは別にダウンロードしてください。パーツデータのプリントアウトには、A4 サイズで厚みのある、しっかりした用紙(官製ハガキ程度)をおすすめします。

本サイトの作例ではケント紙の135kg(0.18mm)を使用しています。

1 始める前に

用意する道具・材料

ものさし ハサミ カッターナイフ 鉄筆など先のとがったもの(折目をつけるためのもの) サインペン
ピンセット 接着剤 指先をきれいにするおしぼり
辞書など「おもし」になるもの(水平に圧着させるため)
など。

ご注意

カッターナイフなど刃物の取扱いには十分にご注意ください。また刃物を使用する場合には、厚紙などを下敷としてお使いください。

接着剤等を使用する際は、室内の換気を十分におこなってください。

データを出力するプリンタの機種によって、出力範囲が異なる場合があります。多少縮小して出力することをお勧めします。

2 作り方

このペーパークラフトは、右図の工作方法の説明をよく読んで、それぞれのパーツの組立てに必要な工作方法に従って組み立ててください。

外線はカッターナイフやハサミで丁寧に切り取ります。

ワンポイント・アドバイス

カッターナイフで丁寧に切り取ってください。

山折り線は、線に沿って鉄筆など先のとがったもので軽くなぞり、折りやすくしてください。極端に強くなぞると、紙に裂目ができてしまうので注意してください。

接着剤をつけすぎると、紙にしわができるので注意してください。

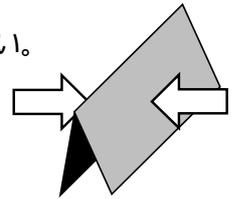
作り始める前に用紙の余白部分等で、接着剤の適量をお試しください。接着剤には乳白色の木工用ボンドをおすすめします。

小口や折目が白く目立つ場合は、サインペンや色鉛筆などで補修してください。完成後では補修作業が難しいので、制作段階で確認しながら組み立ててください。

工作方法の表記

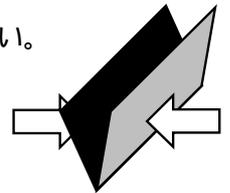
———— (実線)

この部分は**山折り**にしてください。



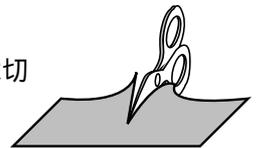
----- (破線)

この部分は**谷折り**にしてください。

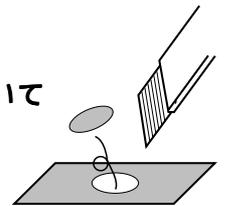


..... (一点鎖線)

このマークがついている部品には切込みを入れてください。



このマークがある部分は**切り抜いて**ください。



3 組立て

組立図と工作方法（2ページ）を参考に、各パーツを組み立ててください。

組立て時の注意表記



折る・丸める

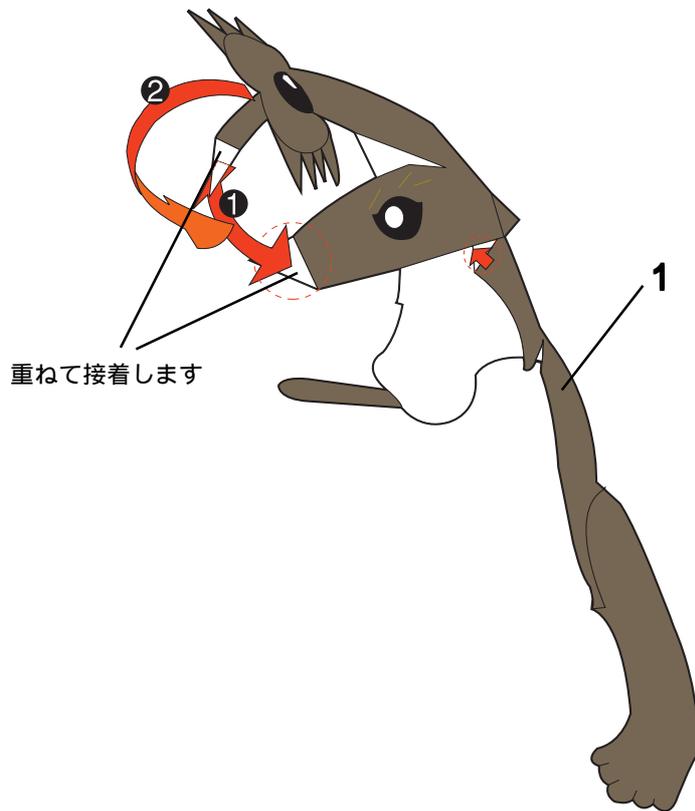


接着する

ニホンカワウソの組立て

1. 頭部・腕部の組立て

① ② の順に各箇所を折り曲げ、接着してください。

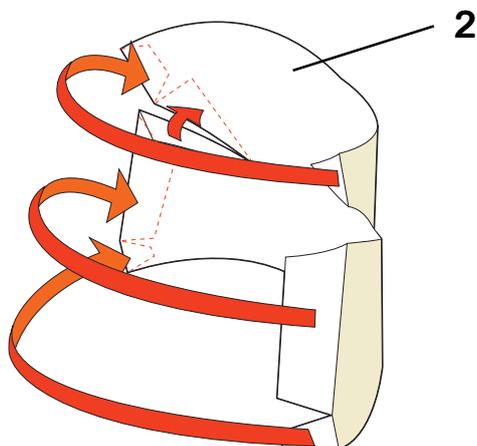


参考写真

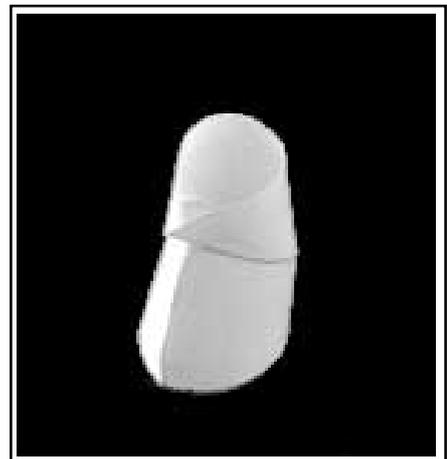


2. 首部の組立て 工作方法の表記に従って各箇所を組み立ててください。

⊗マークがついたのりしろ（図の点線で囲んだ部分）は他のパーツとの接着面になります。現時点では接着剤をつけないでください。



参考写真



3 組立て

組立図と工作方法（2ページ）を参考に、各パーツを組み立ててください。

組立て時の注意表記



折る・丸める



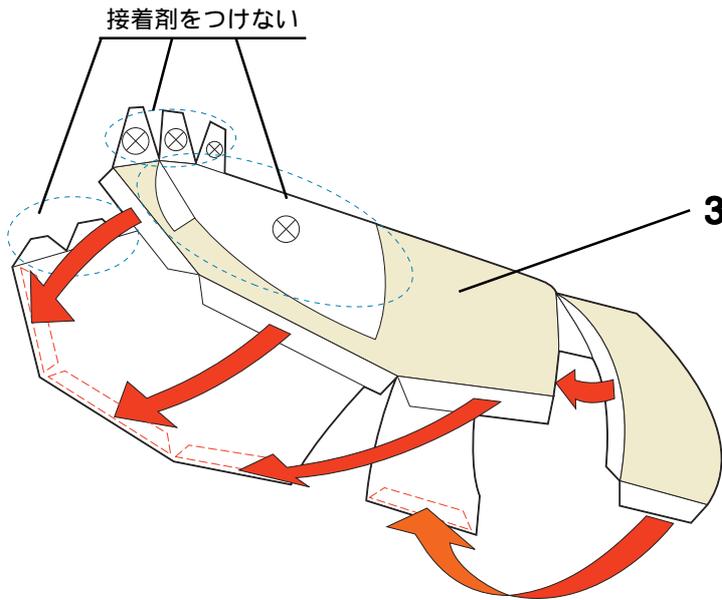
接着する

ニホンカワウソの組立て

3. 腹部の組立て

工作方法の表記に従って各箇所を組み立ててください。

⊗マークがついたのりしろ（図の点線で囲んだ部分）は他のパーツとの接着面になります。現時点では接着剤をつけないでください。

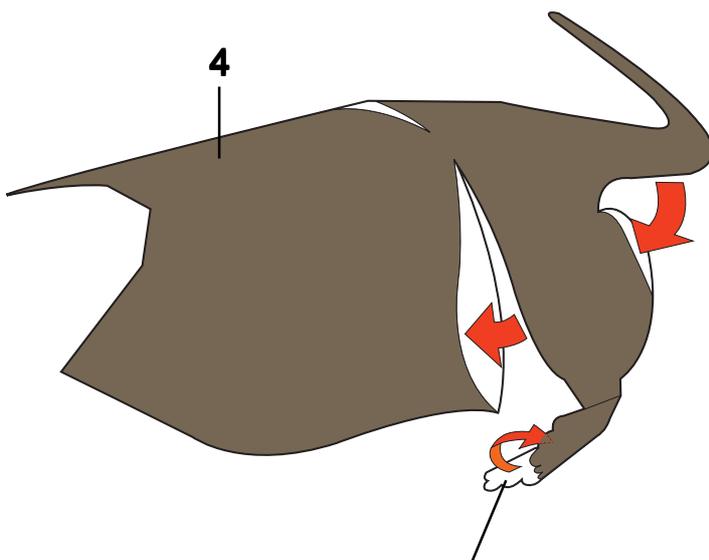


参考写真



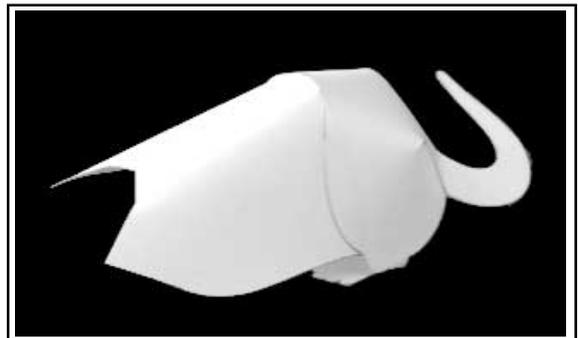
4. 腰部・脚部の組立て

工作方法の表記に従って各箇所を組み立ててください。

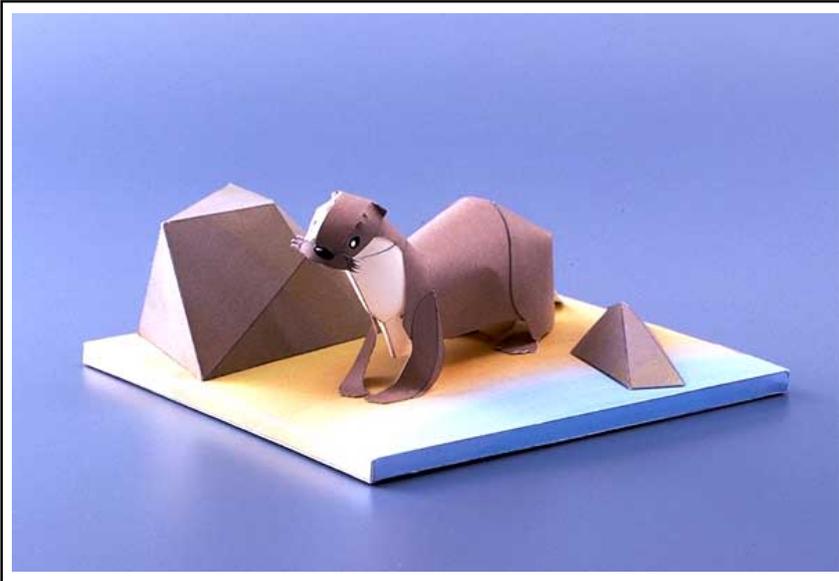


折り曲げて接着します
(反対側も同様に組み立てます)

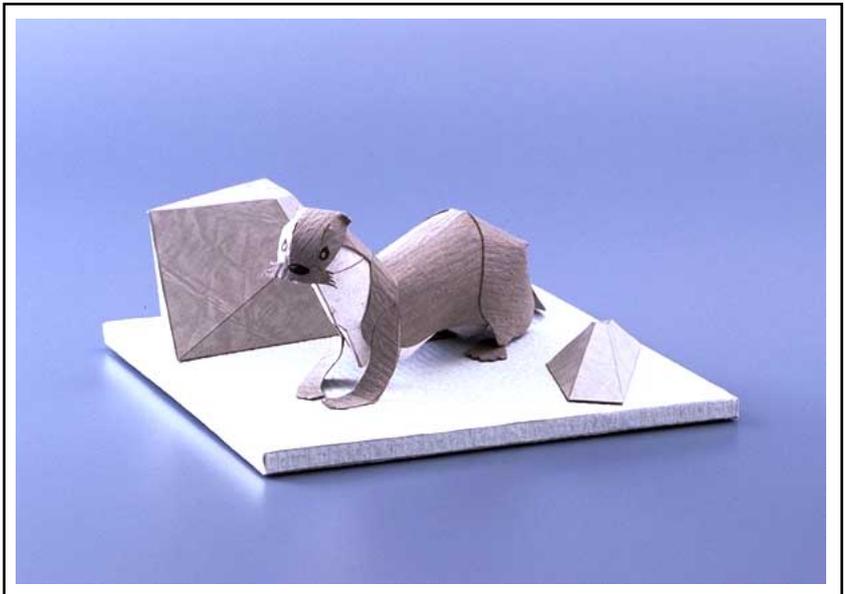
参考写真



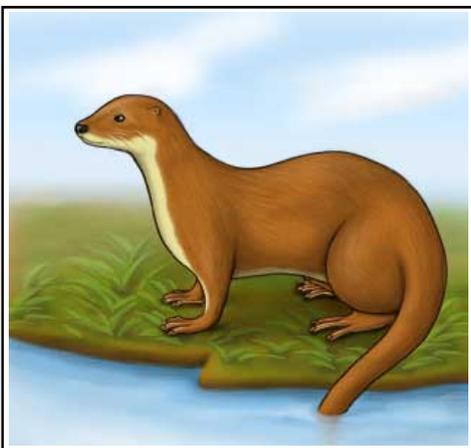
完成写真です。組み立てや着色の参考にしてください。



カラータイプ



無着色タイプ
(紙の質感をより楽しめるタイプです)



希少動物「ニホンカワウソ」

ニホンカワウソは、イタチ科に属する夜行性の動物で、体長は成獣で65cmから80cmほどになり、流線型の身体は背中が暗褐色、腹部が淡褐色をしています。かつては日本中に生息していましたが、河川の開発による生息地・繁殖地の減少や乱獲のためにその数は激減してしまいました。1979年に高知県で目撃されて以来、その姿は確認されておらず、現在も市民団体や専門家の人たちが生存の確認をするべく調査を続けています。